

本社設計部

社内デザインレビュー

デザインレビューとは、設計・計画における各段階の成果物を、複数の人にチェックしてもらったり、その成果物を使って検討したりする行為を体系化したものです。

成果の品質を向上させるため品質管理責任者総括のもと、技術担当（設計部、調査部、用地補償部）による技術会議を開催し、ある案件を対象にデザインレビューを行いました。

実施方法としては、業務担当者がスクリーンに投影した資料に基づき、当業務の課題、問題点をプレゼンした後に、質疑応答、問題点の洗い出し、課題解決方法などについてレビューを行います。各部門技術者の多種多様な視点から様式にとられないデザインレビューを行うことが狙いです。



Aグループ

対象

この道路詳細設計業務では、警察等協議による指摘事項を踏まえ、ランプ交差点の以下三つの問題点を対象に社内デザインレビューを実施しました。

警察等協議による指摘事項

問題①: OFFランプからの車両発進時における、路面凍結スリップ事故防止対策。

問題②: ランプON・OFF車両と交錯する歩行者安全対策。

問題③: OFFランプからの誤侵入防止対策。



本社4F会議室

実施状況

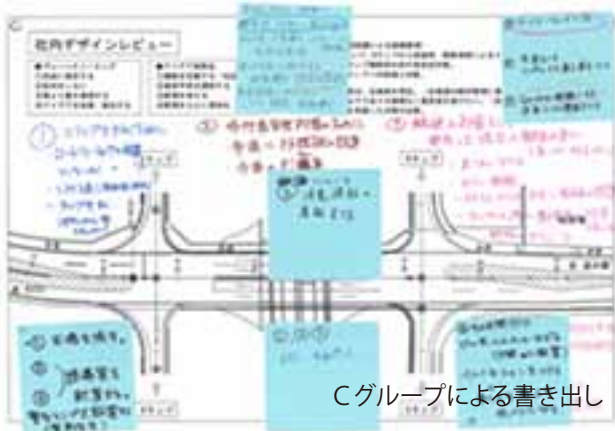
実施方法は、管理技術者・担当技術者から趣旨の説明後、たくさんのアイデアを創出するため、ワークショップ形式（A・B・Cの3グループ）で実施し、BS法、KJ法を活用することで、自由な意見を尊重する形式で行いました。

●BS法（ブレン・ストーミング）

創造性開発のための技法。一言でいえば、何人かが集まり、あるテーマをめぐって、既成概念にとらわれず、自由奔放にアイデアを出し合う会議形式の一種。

●KJ法（考案者の頭文字から）

一見関連性の低い多くの断片的な情報を統合して、アイデアを生み出したり、問題の解決の糸口を探り出すための手法。多くの雑多な情報を、関連性の高い単位でグループ化し分類・統合を進めることで、グループを意味を持つ単位に集約させることができ、そこからアイデア、解決の糸口を得ることができる。



Cグループによる書き出し



Bグループ

実施結果

以下、対策を抽出するとともに、範囲（部分的・全体的）に着目することができました。この着目点について、コスト妥当性の観点から更なる検討を行い業務に反映します。

【代表対策】

問題点①「スリップ対策」

ロードヒーティング、ソーラー利用、凍結防止剤、凍結抑制舗装、照明、砂、温泉水、法定外看板、標識（ピクトグラム含む）。

問題点②「歩行者安全対策」

歩道橋、歩行者専用通路、誘導員、警告ランプ、歩行者注意標識設置、誘導照明など。

問題点③「誤進入対策」

標識の設置（ピクトグラム、自発光）、誘導員、音のなる舗装、オープンゲート、カラー舗装、ランプ内に駐車場設置（戻りを促す）、照明の工夫、イメージしやすい地名表現。



Cグループ

このように、弊社では日々、業務品質をより高めるための努力をし、社内外での講習会等にも積極的に参加するようにしております。